



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY



第23回例会(3月19日)
令和3年3月26日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～
<https://www.morioka-rc.jp/>

会 長 米内 正
幹 事 大平 騰一
会 報 佐藤 仁志
クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ Rotary Opens Opportunities:ロータリーは機会の扉を開く…ホルガー・クナーク
盛岡RC会長テーマ 奉仕の輪を拡げ困難を乗り越えよう 米内 正



ゲスト卓話

震災遺児が教えてくれた“ことば”の力 ～7年の継続取材で出会った“ことば”の意味～

NHK盛岡放送局 アナウンサー

大嶋 貴志 様

●スピーカー紹介●

大嶋貴志 埼玉県出身 39歳
2004年 NHK入局 長崎放送局
2009年 徳島放送局
2014年 仙台放送局 「ウイークエンド東北」キャスター
など
2018年 アナウンス室 「首都圏ネットワーク」リポ
ーターなど
2020年 盛岡放送局 「おぼんですいわて」キャスター

NHK盛岡放送局アナウンサーの大嶋貴志です。
普段は平日の夕方のニュース番組「おぼんです
いわて」のキャスターを担当しています。

日々のニュースや情報を伝える一方、ライフワー
クとして、東日本大震災の取材を行っています。

先月23日、総合テレビで、ドキュメンタリー番
組「あの日から～震災遺児の10年～」を放送しま
した。

被災地では、約1800人の子供たちが親を失いま
した。その後、どのような支えを受け、進学し、
社会に巣立っていったのか、当時高校生だった2
人の若者を主人公に、震災後の日々を見つめる内
容です。

今回ディレクターと共に、3年間、密着取材を
してきました。

彼ら彼女たちの話を聞いていると、ハッとさせ
られる“言葉”にたくさん出会いました。

今日は、取材を通して心に残った“言葉”と、
その意味についてお話したいと思います。

震災遺児と知り合ったきっかけは7年前にさか
のぼります。

私は被災地出身ではありませんが、震災後、仙
台局で4年勤務していました。

大学時代の友人が勤める企業が、震災遺児の進
学支援をしていたことをきっかけに、交流イベン
トのお手伝いをするようになりました。

震災遺児を支援している団体、仙台市に拠点を
置く「公益財団法人・みちのく未来基金」。

2011年秋、カルビー、ロート製薬、カゴメの3
社が設立しました。進学資金の援助をはじめ、遺
児たちが交流できるイベントも定期的に開催して
いて、私もボランティアとしてお手伝いをしてい
ました。そこで100人以上に出会ってきました。普
段話をしていても、魅力的な若者たちばかりです。

ただ、実際、じっくりと話を聞いてみると、「震
災前」「震災当日」「震災後」、一人ひとり、状況
や悲しみ方、亡くなった家族との向き合い方も違
います。

それなのに、普段の放送では、「震災10年だから」
「震災遺児」とひとまとめにして伝えていたこと
に改めて気づかされました。ニュースでは、短い
時間で分かりやすく伝えるために、ひとまとめに
して情報を伝えざるをえません。でも、その一方
で、「遺児」という言葉で括ることは、子供たち
に知らず知らずのうちにプレッシャーを与えてし
まっていたのではないかと、一人ひとりの個性や生
きてきたことに目を向けずに伝えてしまっていた
のではないかと痛感しました。

この10年、一人ひとり歩みが違うことに、心を
寄せてもらえたらと思い、ドキュメンタリー番組
の制作に臨みました。

番組では、当時高校生だった2人に密着しまし

た。その中の1人、津波で父親を亡くした宮城県南三陸町出身の男性は、「恩送り」という言葉を大事に生きていました。これは、「みちのく未来基金」の代表理事からもらった言葉でした。「恩送り」には、「震災で恩を与えてくれた人には返すことができないが、これから出会った人の為に、恩を送ってほしい」という意味が込められていました。実は、この若者は、1年半前脳腫瘍が見つかり、医師からは余命宣告を受けていました。生きる意味を考えていた時にももらった言葉でした。震災をきっかけに生まれた人との縁が、生きる上での支えになっていました。

また、釜石市の女性は、いまだに、母親を失った実感を持ってないと言います。

インタビューをした時、「表向きは墓参りしますよ、花を手向けたりしているけど、形だけはあるけど、中身は違うというか…」という言葉に衝撃を受けました。

震災の教訓を積極的に語ってきたはずなのに、

実は、亡くなったお母さんと向き合えていなかったと感じていたのです。取材をしていると、決して向き合っていないとは感じませんでした。

未曾有の災害で一度に、多くの人々が亡くなったということ。その状況の中で生きていかなければいけなかったこととはどういうことなのか、私自身考えさせられた言葉でした。

それぞれの心の持ちように、決して正解があるわけではありません。

きっとこれからも、親や家族を失った人たちは、考え続け、向き合い続ける。もしくは、向き合うことができないのかもしれませんが。

震災から10年が経ち、建物などのハード面は一段落しますが、人の心はどうでしょう。

沿岸部で取材をしていると、「復興」という言葉がしっくりきていないのが実感です。

決して言葉では発することがない心の声に、周りはどう思いを馳せられるのか。問われていると感じました。

例会報告

第23回例会

令和3年3月19日(金)

場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

12時30分 開会点鐘

- ・司会 米内正会長
- ・ロータリーソング
(それぞれそロータリー)
- ・ゲスト 大嶋貴志様
(NHK盛岡放送局 アナウンサー)
- ・会長報告 米内正会長
- ・再入会紹介 下道利幸会員

(行政書士法人リプル法務 代表社員)

- ・誕生祝 小川彰君
- ・結婚祝 小川彰・島山将樹・
高橋一仁君
- ・幹事報告 大平騰一幹事
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆島山将樹君…下道さんが戻ってきてくださったことに感激しニコニコいたします。当クラブのフードドライブへの取組みなど、下道先輩のロータリー精神に学んでいきたいと思えます。

◆藤村吉隆君…おかえりなさい。下道さんの再入会を歓迎してニコニコします。

◆米内正君…本日の卓話の講師は皆様ご存知のNHKアナウンサー大嶋貴志様です。NHK盛岡放送局局長の大久保嘉二さんのご配慮によるものです。「震災遺児が教えてくれた“ことば”の力～7年の継続取材で出会った“ことば”の意味～」と題する卓話を頂戴いただきました。大変ありがとうございます。感謝を込めてニコニコします。



プログラムのお知らせ

- ・3月26日(金) 環境保全ポスター表彰式
- ・4月2日(金) 会員卓話 西島光茂会員
- 9日(金) 新入会員卓話 三浦義孝会員「小児科医のたからもの」
- 16日(金) 卓話
- 23日(金) 卓話
- 30日(金) 特別休会



●本号編集担当/西館 政美